HOKUGA 北海学園学術情報リポジトリ
学校法人北海学園
北海学園大学
北海商科大学

タイトル	中世西大寺流関係文献目録稿（その4）
著者	追塩，千尋；OISHIO，Chihiro
引用	北海学園大学人文論集(63)：1-27
発行日	2017-08-31

Hokkai-Gakuen Organization of Knowledge Ubiquitous through Gaining Archives.

中世西大寺流関係文献目録稿（その４）

追　塩　千　尋

本目録は『人文論集』20 号（2001 年 11 月）・34 号（2006 年 7 月）・49 号（2011 年 7 月）に続き 4 回目となる。2 回目以降は 5 年毎に作成していたので，本来であれば今回の 4 回目は 2016 年中に出されるはずであった。しかし，西大寺流研究が以前ほど活発とはいえないことの反映なのかもしれないが，2015 年末時点で収集し得た文献は量的には十分ではない，という思いを抱いていた。そうした時に，2016 年には忍性生誕 800 年を記念した特別展（期間は 7/23～9/19，於奈良国立博物館）が開催されるという情報を得た。さらに，その年の秋には金沢文庫でも忍性の特別展が開かれることを知った（開催期間は 10/28～12/18）。なお，2016 年 10 月からは秋原北胤監督による映画『忍性』（和泉元彌主演，叡尊役は綾田俊樹）も上映された（筆者は鑑賞の機会を得ていない）。こうした状況を鑑み，目録作成作業を 1 年延期することにした。

期間を延期して収集作業を継続している間，今度は 2017 年に西大寺創建 1250 年を記念した西大寺展が各地を巡回して開催される，という情報を得た（東京展は 4/15～6/11，大阪展は 7/29～9/24，山口展は 10/20～12/10）。そのため，さらに目録作成作業を西大寺展開始まで半年ほど延期することとした。

以上の事情により本目録の範囲を，2011 年から 2017 年 6 月頃までの 6 年半とすることとした。期間としては中途半端な感は否めないが，創建 1250 年記念の西大寺展までとしたことにより，年度による機械的区切りではなく内容を伴う区切りになったと思われる。また，今回をもって目録作成を一応終了することとするが，その区切りを西大寺展開催に設定し得たことも意味あることと考えている。

凡例は20号に掲載した内容と同じであるので繰り返さないが，作成中に量的不足を感じたため採録の範囲をこれまで以上に広げるように努めた。前々回までは叡尊・忍性・西大寺・極楽寺などをキーワードとすることにより，関係する著書・論文などを比較的容易に検索できたが，前回位からそれらのキーワードだけでは関係文献の収集は困難になった。表題にそれらのキーワードが示されることが少なくなったからである。表題に叡尊・忍性・西大寺などの表記が無くても，中身は西大寺流あるいは何らかの関係を論じた論稿は結構多く，今後も増えていくことが予想される。こうした動向の意味することに関して前回は，西大寺流の社会的広がりや中世宗教に占める位置について多様な分野の研究者から関心が寄せられていることの現れであるとしたが，その傾向はその後も継続していることが知られる。西大寺流研究の深化と広がり，および活性化という点で歓迎すべき傾向と思われる。

以上の積極面を了解したとしても，今回の目録を見て西大寺流とは無縁と思われる表題の論稿が結構目立つという印象を持たれるかもしれない。例えば，2012年の今村英明論稿は表題からはうかがえないかもしれないが，内容は西大寺教団における僧伽の構造と戒律護持のメカニズムを経営学の視点から探ったものである。各論稿の西大寺流との「関係性」の度合いなどについては，各自実際に現物に当たった上で判断していただきたい。その「関係性」を見る際に小野澤眞編『時衆文献目録』（2016年）の採録方法も参考にしていただきたい。

さて，今回の対象期間の研究動向についていくつか特徴的なことを述べながら，今後の課題などを指摘しておきたい。

第一は，2017年度開催の西大寺展についてである。この展覧会の図録には，これまでの西大寺流研究の一つの到達点が示されていることを確認しておきたい。1990年から翌年にかけて叡尊の700年忌を記念した西大寺展が開催された（1990年は奈良国立博物館，翌年は東京国立博物館で開催）。その図録には谷口光明の「興正菩薩叡尊上人と西大寺」という総論的論稿と，「西大寺の美術」として西川杏太郎の総論に続き「彫刻」（松浦正

昭）「絵画」（河原由雄）「書跡」（西山厚）「工芸」（阪田宗彦）に関わる解説が収録されている。展示品は密教関係が多いこと（戒律運動に関わるものは展示しにくかったのかもしれない）とも関わり，解説文は概して叡尊を密教僧として捉え，叡尊の諸信仰に関わる遺品などに注目していた。そして展示品もほぼ奈良を中心とした畿内寺院所蔵のものに限定されていた感がある。

これに対し 2017 年度の西大寺展の図録では今回の目録に示した目次から知られるように，展示品は美術品関係が中心になるため骨格となる構成は 1990 年のそれと大差はない。しかしながら，コラムや特別寄稿などからも知られるように，また，山口でも開催されることもあり，西大寺教団の地域的広がりを踏まえた内容になっていることが大きな特色といえる。さらに，叡尊に関する諸信仰とその特徴，及び造像活動を通じた人々の組織・結縁の実態に力点が置かれていることが特徴的である。1990 年と 2017 年の両展示は西大寺展とは言いながら実質は叡尊展であるが，2017 年度のものは叡尊教団の多彩な活動とその広がりについての研究成果が反映された展示であることが，1990 年のそれとの違いであるといえるであろう。

第二には，西大寺展に先立って開催された二つの忍性展についてである。忍性という一僧侶をテーマとした点が画期的で，これまでの忍性研究の集約と今後の研究課題が示された展覧会といえる。奈良博の忍性展は忍性の生涯を額安寺時代・西大寺時代・筑波時代・極楽寺時代・勧進僧の時代の五つに分け描いている。中でも全巻が掲載された東征伝絵巻は圧巻であるが，忍性による唐招提寺への絵巻奉納（1298 年）と唐招提寺御影堂再建（1302 年）に込められた律宗興隆祈願の意義に注意が向けられている（『図録』谷口耕生論文）。

金沢文庫の忍性展は，副題が「関東興律七五〇年」とあるように，忍性の極楽寺入寺（1267 年，この年は称名寺が律院化した年でもある）から 750 年を記念したもので，関東における忍性の活動に焦点が当てられている。この忍性展は西大寺展と同様に忍性没後の動向にも目配りがなされて

いる。明徳2年（1391）の『西大寺末寺帳』には三河以東の西大寺流寺院は極楽寺に属することが記されているが，極楽寺末寺帳なるものは残されていない。したがってその全貌は知りえないが，可能な限りその実態に迫ろうとしている。西大寺流の末寺研究の成果は松尾剛次氏によりまとめられたが（松尾，2017年の著書。他に小野澤眞，2011年の論文など），まだ未検討の末寺が残されている。その一つが極楽寺末寺であるが，今後の末寺研究に寄与する図録といえよう。

第三は，西大寺・忍性展から浮かび上がった西大寺流研究の諸課題の一つは，叡尊・忍性没後の西大寺流（あるいは極楽寺流）の動向である。それらの動向は，末寺研究が盛んになりつつあることにより解明が進められているのが近年の傾向といえよう。文献的には制約があろうが，末寺や関係寺院に残されている尊像・祖師の肖像や彫像・仏具・石造物類などは少なくない。そのうち石塔研究は山川均・佐藤亜聖氏らにより成果がまとめられているが（山川均，2015年の二書。佐藤亜聖，2011・2015・2016年の論文），それらの集約・分析を今後学際的に進める必要があろう。佐伯俊源編『祖師のおすがた』（佐伯俊源，2015年の著書）は，称徳天皇・叡尊・忍性・信空ら西大寺関係者の肖像集である。西大寺や末寺・関連諸処に遺された歴代祖師の肖像の網羅を目指した『祖師肖像御影聚英（仮題）』を準備中との事（『祖師のおすがた』所載の「ご挨拶」）であるが，西大寺教団の動向をうかがう上で有益な資料となることが期待されるので，完成が待たれるところである。

末寺研究が盛んになることは歓迎すべきことであるが，それと並行して本寺である西大寺史及び極楽寺史の研究も進められねばならない。西大寺の寺史研究は以前から乏しかったのであるが，今回の目録の範囲においても低迷ともいうべき傾向は継続している。歴代長老の個別研究を進めることは基礎的研究として有益であろうし（舩田淳一，2014年の論文），西大寺の寺院組織は従来からの寺僧と叡尊及びその一門の律家から成り立っていることを今一度踏まえて，律家と寺僧の関係史の中で検討していくことも必要であろう（村瀬貴則，2012・2015・2016年の論文など）。西大寺は叡尊

集団一色ではなかったのであるから，叡尊の活動を強調しすぎると西大寺の全体像が見えにくくなることに注意が必要である。その点で，黒田俊雄編『寺院法』（2015 年）所収の西大寺関係文書（西大寺文書 4 通，福智院家文書 2 通）とその注釈から，律家ばかりでなく寺僧の一面を認識することが重要と思われる。また，南北朝以降の西大寺及び極楽寺を語る史料は末寺のそれに比して少なくないのであるから，研究する余地はまだまだあるといえる。そのため，極楽寺に関する資料集である『極楽律寺史』中世・近世編，彫刻・工芸・石造建造編（2003 年）の西大寺版の編集・作成が改めて求められよう。

西大寺の寺史研究を進めるに際して，必要以上に西大寺流の独自性を強調することは慎まねばならない。独自性を主張するなら，他の寺院や宗派の動向などとの関連が問われねばならない。近年北京律の拠点であった泉涌寺の研究が進み，宋代仏教文化を取り入れ日本仏教に大きな影響を与えたことが明らかにされている（西谷功，2013・2014・2016 年の論文）。西大寺も泉涌寺流の影響を受けているのである。宋代仏教を取り入れることにより鎌倉期に隆盛した泉涌寺が中世後期にどのような動きを見せたのかを『視覃雑記』の解読を通じて明らかにした研究（大谷由香，2015・2017 年の著書）は，西大寺史研究にも益するところが大きいと思われる。

第四は，前回の目録でも述べたが，叡尊・忍性を正面から扱った論稿の減少が継続していることである。もっとも，叡尊・忍性やその教団の「活動」といった類の論稿はそれなりに目にはつく。ここで指摘したいのは，彼らの思想や宗教体系などについて論じた論稿が少ないということである。忍性の場合は思弁的著作が乏しいためその辺の詮索は容易ではないが，叡尊に関しては従来から問題とされている真言律の中身の解明がいまだ残されている課題といえる。佐伯俊源氏の論稿はその問題に改めて取り組んだもので（佐伯俊源，2016 年の二本の論文），江戸期の湛海の真言律の特性を踏まえながら，叡尊の宗教体系を整理し，叡尊は戒律を重視した密教僧であるとしている。叡尊における真言と戒律との関係は叡尊の本質に関わることであり，また叡尊没後の教団の動向と性格付けの問題とも深く

関わるので，今後も折に触れて議論していくことが求められよう。

その他，雑誌等論文の項目から内田啓一氏による美術史の立場からの文観や西大寺に関係する図像類の研究や，大塚紀弘氏の西大寺のみに限定されない律宗・律僧の諸相や動向に関わる精力的な研究がうかがわれるが，いずれそれらを一書にまとめ全体像を提示されることを期待したい（内田氏は2017年2月に逝去され，それが叶わなくなったのが惜しまれる）。

最後に，西大寺流の中世仏教における位置づけに関して，少々過去に遡って確認しておきたい。その際に，戦後4回刊行された岩波講座『日本歴史』（3回目の書名は『日本通史』）所載の鎌倉仏教論を素材としたい。岩波講座『日本歴史』所載の諸論考は単なる概説とは異なり，執筆者の意向がかなり入った論文調の体裁がとられている。そのため，執筆者が変われば各論考の趣はかなり異なるであろうことが予想され，どこまで標準性が示されているのかという課題はあろうが，それぞれの時期の水準を示す論考であることは間違いないため，検討のための素材とすることとした。なお，講座は戦前も含めると今日まで通算5回刊行されているが，日本宗教史をめぐる諸課題のうち鎌倉仏教論は5回連続して取り上げられている唯一のテーマである（戦前のそれは松本彦次郎「鎌倉時代に於ける新仏教の発展」，1935年）。

各時期の執筆者及びその刊行年を示すなら（タイトルは省略），①川崎庸之（1962年）②大隅和雄（1975年）③平雅行（1994年）④上島亨（2013年），である。①は宗派史の視点ではなく，時の流れとともに仏教が背負う課題の変化を見据え，法然から日蓮までが段階論的に検討されている。取り上げられた僧侶は一遍を除く所謂新仏教者のみで，旧仏教の記述は無い。②は新旧仏教者および教団の動向について，思想史的視点から過不足なく叙述されている。叡尊・忍性らは旧仏教（論考では「既成仏教」という表現）の革新の中心をなすとされる。③は後に平氏の『鎌倉仏教と専修念仏』（2017年，法蔵館）に改稿され収録された（同書第13章）。西大寺流の位置づけに関しては骨子において旧稿と変わりはないので，新稿版を紹介する。治承・寿永の内乱を契機に仏教革新運動が起こるが，その一つである穏健

改革派は持戒持律という禁欲主義を提起する。それらの動きは顕密仏教の枠内にとどまるが鎌倉初期は栄西・明恵・貞慶らにより担われ，中期には叡尊・忍性らの禅律僧に継承されたとする。④は鎌倉仏教を新仏教か顕密体制かといった二者択一的に捉えるのではなく，戒・定・慧の三学一致の仏教像を基準にそれからの逸脱と仏法に対する洞察の深化という視座から捉えなおそうとする。三学一致の理想の僧侶は無住などの遁世僧で，それを中世仏教の本流とする。そうした遁世僧を組織していったのが律宗と禅宗で，律宗の動向として叡尊・忍性らの活動があり，彼らは勧進聖など遁世の活動を発展させ組織化したと位置づける。

新仏教のみで語られていた①の段階から，②により旧仏教にも一定の場が与えられ，③と④とでは視点は異なるが，西大寺流は中世仏教の本流に位置づけられるようになった，という流れがうかがえよう。現在は以上のような位置づけがなされていることを踏まえ，その適否なども検証しながら今後の西大寺流研究は進められねばならないと思われる。

１，単行本・展覧会図録類・雑誌特集

補遺（2011 年以前）

久保尚文『越中における中世信仰史の展開』桂書房　1984，増補 1991

なにわ・大阪文化遺産学研究センター『道明寺天満宮宝物選』関西大学なにわ・大阪文化遺産学研究センター　2007

藤田裕嗣『荘園絵図が語る古代・中世』山川出版社　2009

２，西大寺絵図における古代・中世

大橋直義『転形期の歴史叙述：縁起巡礼，その空間と物語』慶應義塾大学出版会　2010

第３章　『平家物語』の内と外 ──「異説」をめぐる考察 ──

第５章　仏舎利相承説と転形期の歴史叙述

第８章　珠取説話の伝承圏 ── 志度寺縁起の構造と南都・律 ──

神戸市立博物館編『海の回廊 ── 古代・中世の交流と美 ──』神戸市立博物館　2010

藤田能宏監修『忍性さん：笑顔のお坊さん（絵本）』忍性菩薩顕彰奉賛会（紫雲山栄福院浄土寺）　2010

屯倉歴史遺産を守る会・三宅ボランティアガイドの会・千田稔『歴史と愛の町，三宅町：太子道が語る「はるかなる古代ロマン」』三宅町　2010

2011年以降

金沢文庫編『愛染明王：愛と怒りのほとけ』（特別展興正菩薩叡尊鎌倉下向七五〇年記念１）　2011

金沢文庫編『仏像からのメッセージ：像内納入品の世界』（特別展興正菩薩叡尊鎌倉下向七五〇年記念２）　2011

小島孝之監修『無住 ── 研究と資料 ──』あるむ　2011

（関係分）

小島孝之「無住略伝」

近本謙介「遁世と兼学・兼修 ── 無住における汎宗派的思考をめぐって ──」

伊藤聡「中世神道の形成と無住」

小林直樹「無住と武家新制 ──『沙石集』撫民記事の分析から ──」

山野龍太郎「無住の作善活動と中条氏との交流」

山田健二「無住の見た風景を歩く ──『沙石集』『雑談集』を手がかりとして ──」

松尾剛次『葬式仏教の誕生』平凡社新書　2011

井原今朝男『中世の国家と天皇・儀礼』校倉書房　2012

（関係分）

第三部第七章　中世の国衙寺社体制と民衆統合儀礼（初出は2004年）

小野澤眞『中世時衆史の研究』八木書店　2012

高埜利彦・安田次郎編『宗教社会史〈新体系日本史15〉』山川出版社　2012

（関係分）

Ⅰの第３章　安田次郎「中世宗教の展開と社会」

Ⅱの第５章　勝浦令子「古代・中世の社会事業と仏教」

Ⅱの第６章　細川涼一「女性と宗教 ── 西大寺叡尊と女性の事例を中心に」

服部秀雄『河原ノ者・非人・秀吉』山川出版社　2012

第一部　河原ノ者・非人

Hank Glassman『The Face of Jizō: Image and Cult in Medieval Japanese Buddhism』University of Hawaii Press　2012

（関係分）

第２章　僧侶による地蔵信仰

第４節　宗派や教義・教団の境界にいる地蔵

第５節　真言律宗の関東地方進出と石造地蔵

＊本書の章・節は英文表題であるが，清水邦彦氏の書評（『日本仏教綜合研究』13，2015 年５月）において示された邦題を掲げた。

山川均編『寧波と宋風石造文化』汲古書院　2012

山川均　第７章　寧波の石造文化と日本への影響（総論）

阿部泰郎『中世日本の宗教テクスト体系』名古屋大学出版会　2013

第Ⅱ部第９章　中世密教聖教の極北 ── 文観弘真の三尊合行法テクスト ──

近藤有宜『西大寺の創建と称徳天皇』勉誠出版　2013

第８章　平安期の西大寺の衰退

嵯峨井建『神仏習合の歴史と儀礼空間』思文閣出版　2013

第３章第２節　『津守氏古系図』の研究

週刊朝日百科『仏教を歩く〈改訂版〉』11「明恵，叡尊，忍性」朝日新聞社　2013

細川涼一『日本中世の社会と寺社』思文閣出版　2013

序論

第１部　中世律宗と公武政権

第２部　中世社会と律僧

第３部　中世の北野社と石清水八幡宮

第４部　源義経の妻と母

宮城洋一郎『宗教と福祉の歴史研究 ── 古代・中世と近現代 ──』法蔵館 2013

（関係分）

第一部第二章　叡尊の実践と福祉課題

第三章　忍性の立脚点と実践課題

赤田光男『中世大和の仏教民俗信仰』帝塚山大学出版会 2014

第一編第一章　南都寺院の仏舎利相伝

国立ハンセン病資料館編『一遍聖絵・極楽寺絵図にみるハンセン病患者 ── 中世前期の患者への眼差しと処遇 ──』国立ハンセン病資料館 2014

大谷由香『中世後期における戒律研究の展開』（平成 24～26 年度特別研究員奨励費研究成果報告書） 2015

研究の概要

第 1 章　南都律宗の研究

第 2 章　泉涌寺の研究

第 3 章　［資料編］智積院新文庫蔵『視覃雑記』（影印・翻刻・索引）

金沢文庫編『仏教説話の世界』金沢文庫

神津朝夫『奈良大和路茶の湯逍遥』淡光社 2015

（関係分）

1，茶の湯以前の奈良と茶

「西大寺の大茶盛」

佐伯俊源編『祖師のおすがた：西大寺創建千二百五十年記念』西大寺 2015

叡尊・忍性・信空の肖像集

David Quinter『From Outcasta to Emperors: Shingon Ritsu and The Mańjuīśrī Cult in Medieval Japan』Brill 2015

広島県立歴史博物館・広島県立歴史民俗資料館編『尾道・浄土寺の寺宝展 ── 瀬戸内の精華 ──』広島県立歴史博物館・広島県立歴史民俗資料館 2015

（論考）

森重彰文「尾道の『浄土寺』」

濱田宣「浄土寺の仏像～その全貌について～」

山川均『石塔造立』法蔵館　2015

第Ⅰ章　塔形各論

第Ⅱ章　伊派石工とその作品

第Ⅲ章　大蔵派石工とその作品

第Ⅳ章　京都の石造物

第Ⅴ章　近江の石塔をめぐって

第Ⅵ章　野間周辺石塔群と凝然

附章　一針薬師笠石仏解体調査報告

山川均『歴史のなかの石造物』吉川弘文館　2015

（関係分）

Ⅲ　京極氏信と三基の宝篋印塔

Ⅳ　凝然と瀬戸内の石造物

小野澤眞編『時衆文献目録』高志書院　2016

金沢文庫編『忍性菩薩　関東興律七五〇年』金沢文庫　2016

総説１　忍性菩薩の足あと（貫井裕恵）

２　極楽寺と称名寺（西岡芳文）

３　忍性の後継者と関東律宗の展開（西岡芳文）

４　忍性の関東下向とその造仏（瀬谷貴之）

忍性と証玄（瀬谷貴之）

奈良国立博物館編『生誕 800 年記念特別展忍性 ── 救済に捧げた生涯 ──』

奈良国立博物館　2016

〈総論〉

吉澤悟「総論　生誕 800 年記念特別展「忍性 ── 救済に捧げた生涯 ──」概観」

〈各論〉

松尾剛次「忍性によるハンセン病患者の救済　鎌倉版マザー・テレサ」

細川涼一「忍性の戒律」
山口隆介「極楽寺忍性像及び叡尊像の造立背景に関する試論 ── 忍性像の寿像の可能性をめぐって ──」
伊藤久美「忍性の肖像画について」
谷口耕生「極楽寺忍性による東征伝絵巻の施入をめぐって」
〈コラム〉
黒尾和久「ハンセン病患者の排除・差別の歴史からみた忍性の救済事業の位置」
内藤栄「忍性の舎利信仰」
斎木涼子「忍性と祈雨」
山川均「忍性と石造物」

近藤成一『鎌倉時代政治構造の研究』校倉書房　2016
（関係分）
第2部第2　西大寺文書にみえる院宣と綸旨

大谷由香『中世後期泉涌寺の研究』法蔵館　2017
序論
第一章　智積院新文庫蔵『視覃雑記』と著者長典
第二章　五辻長福寺と「見蓮上人門徒」
第三章　寺宝・儀式の保持
第四章　本願寺八世蓮如周辺と「見蓮上人門徒」
第五章　「見蓮上人門徒」によるセ泉涌寺再興と違乱
第六章　先白善叙と「見蓮上人門徒」の攻防
結論
付録1　『視覃雑記』翻刻
付録2　『視覃雑記』人名・寺院名・年月日索引

松尾剛次『中世叡尊教団の全国的展開』法蔵館　2017
第一部　叡尊教団の社会救済活動
第一章　仏教者の社会的実践
第二章　「病」観の変遷

第二部　叡尊教団の本州における展開

第一章　河内国における展開（一）

第二章　河内国における展開（二）

第三章　紀伊国における展開

第四章　美濃国における展開

第五章　尾張国における展開

第六章　越中国における展開

第三部　叡尊教団の九州における展開

第一章　筑前国における展開

第二章　筑後国における展開

第三章　豊後・豊前国における展開

第四章　肥前・肥後両国における展開

第五章　南九州における展開

三井記念美術館他編『創建 1250 年記念　奈良西大寺展 ── 叡尊と一門の名宝 ──』日本経済新聞社　2017

清水眞澄「西大寺の歴史と美術」

奥健夫「叡尊像の造立について」

米屋優「叡尊「興法利生」の造仏」

〈コラム〉

佐伯俊源「西大寺の創建 ── 称徳女帝と道鏡禅師 ──」

辻村泰善「叡尊と聖徳太子信仰」

竹下正博「うつつ世のほとけ ── 蒙古襲来と肥前東妙寺の釈迦如来 ──」

〈特別寄稿〉

松尾剛次「叡尊教団の各地への広がり」

細川涼一「叡尊の教えと活動」

〈その他〉真言律宗寺院マップ，西大寺歴代長老，西大寺史略年表，参考文献

2，雑誌等論文

補遺（2011年以前）

川勝政太郎「大蔵寺石造層塔と伊行末」『大和文化研究』4-2　1956

近岡七四郎「越中国における大和西大寺の末寺について」『越中史壇』16　1959

浅子勝二郎「鎌倉期における石造美術をめぐる若干の問題」『史学』39-4　1962

小松茂美「東征伝絵巻 ── 高僧伝絵の制作 ──」日本絵巻大成16『東征伝絵巻』解説　中央公論社　1978

真喜志瑶子「琉球極楽寺と円覚寺の建立について（２）」『南島史学』29　1987

清水邦彦「貞慶の地蔵信仰」『倫理学』12　1995

小早川健「『八幡愚童訓』と中世紀行文」神戸市立工業高等専門学校『研究紀要』34　1996

源健一郎「源平盛衰記と『東大寺縁起絵詞』── 行基・寂照・重源のこと ──」関西軍記物語研究会編『軍記物語の窓』第一集所収，和泉書院　1997

藤井直正「河内教興寺と浄厳和尚」『大手前女子大学論集』32　1998

浅見和彦「東国文学史稿（一）」『文学・語学』166　2000
同『東国文学史序説』所収（2012年，岩波書店）

佐藤亜聖「中世開発史の歴史考古学的研究」『奈良大学大学院研究年報』5　2000

橋本素子「鎌倉時代における宋式喫茶文化の受容と展開について ── 顕密寺院を中心に ──」『寧楽史苑』46　2001

水野章二「中世の額安寺と周辺地域」『国立歴史民俗博物館研究報告』8　2001

高田陽介「葬送のにないて：中世非人の職掌との関わりから」『史論』56　2003

太田順三「「得宗被官」安東蓮聖再考」悪党研究会編『悪党と内乱』所収，

岩田書院　2005
上杉和彦「日本中世の伝承と相模国毛利荘」明治大学大学院文学研究科『文化継承学論集』3　2006
同『鎌倉幕府統治構造の研究』所収（2015 年，校倉書房）
大塚紀弘「空間から見た極楽寺 ── 忍性と律法興行 ──」中世鎌倉研究会編『シンポジウム「中世都市鎌倉と極楽寺」予稿集』所収　2006
茨城県立歴史館「所蔵資料紹介：三村山清冷院極楽寺跡出土瓦」茨城県立歴史館『歴史館たより』97　2007
黒木隆英「中世における真言律宗の造像活動について」『奈良大学大学院研究年報』12　2007
香川県埋蔵文化財センター「西大寺流律宗との関係　白峯寺十三重塔」『香川県埋蔵文化財センター情報誌』58　2008
宮城洋一郎「忍性の社会的実践 ── 行基の後継者 ──」堺行基の会編『講演会「行基さんと堺・泉州」所収，堺行基の会　2008
小谷利明「河内国渋川郡太子堂の成立と史跡の形成」『八尾市立歴史民俗資料館研究紀要』20　2009
長崎陽子「病を癒す仏教僧 ── 日本中世前期における医療救済 ──」龍谷大学人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター「仏教生命観に基づく人間科学の総合研究」研究成果 2008 年度報告書　2009
根井浄「架橋の論理 ── 橋の仏教史 ──」近畿大学日本文化研究所編『日本文化の美と醜：その形式と融合』所収，風媒社　2009
根立研介「日本の肖像彫刻と遺骨崇拝」『死生学研究』11　2009
藤原重雄「都市の信仰 ── 像内納入品にみる奈良の年中行事 ──」高橋慎一郎・千葉敏之編『中世の都市 ── 史料の魅力，日本とヨーロッパ ──』所収，東京大学出版会　2009
松岡心平「南都律宗と能」『能と狂言』7　2009
大河内智之「広利寺十一面観音立像と律宗」町田市立国際版画美術館編『救いの仏 ── 観音と地蔵の美術 ──』所収，町田市立国際版画美術館　2010

大戸安弘「仏教教育としての遊行の位相」初出は 2007 年，久木幸男編『仏教教育の展開〈仏教教育選集 2 〉』所収，国書刊行会　2010
大塚紀弘「宋版一切経の輸入と受容」『鎌倉遺文研究』25　2010
神津朝夫「南都茶の湯逍遥 ── 平城宮跡・西大寺 ──」『淡光』64-2　2010
笹尾正道「大茶盛の由来」『21 世紀の智と実践』7　2010
Deleanu Florin「Transmission and Creation: Ordinations for Nuns in Ancient and Early Medieval Japan」『国際仏教学大学院大学研究紀要』14　2010
吹田直子「中世再興後の丹後国分寺の寺地移動について～寺蔵資料の記事を中心に～」『京都府埋蔵文化財論集 ── 創立三十周年記念誌 ──』第 6 集　2010
中西随功「忍性律師の慈善事業観」日本仏教学会編『慈悲』所収，平楽寺書店　2010
中村翼「鎌倉中期における日宋貿易の展開と幕府」『史学雑誌』119-10　2010
山中講一郎「ハンセン病と日蓮」『法華仏教研究』 6　2010

2011 年以降

阿部泰郎「宝珠の象る王権 ── 文観房弘真の三尊合行法聖教とその図像 ──」内藤栄『舎利と宝珠〈日本の美術 NO539〉』所収　2011
井上聡「伊予の地域社会と奈良の律僧」高橋慎一郎編『列島の鎌倉時代：地域を動かす武士と寺社』所収，高志書院　2011
宇都宮啓吾「智積院における聖教の継承と集積：新文庫聖教を手懸りとして」『智山学報』60　2011
大塚紀弘「鎌倉極楽寺流律家の西国展開 ── 播磨国報恩寺を中心に」『地方史研究』61-3 （研究例会報告要旨）　2011
奥健夫「奈良の鎌倉時代彫刻」『日本の美術』536　2011
小野一之「聖地としての聖徳太子〈生誕地〉」吉田一彦編『変貌する聖徳太子』所収，平凡社　2011
小野一之「聖徳太子の再生 ── 律宗の太子信仰 ──」吉田一彦編『変貌する

聖徳太子』所収，平凡社　2011
小野澤眞「『西大寺末寺帳』寺院比定試論」『寺社と民衆』７　2011
小野澤眞「中世仏教の全体像 ──「新仏教」再考の視点から ──」『高田学報』99　2011
鯨井清隆「広島県浄土寺所蔵「仏涅槃図」再考」『美術史』61-１　2011
佐伯俊源「西大寺光明真言土砂加持大法会」日本芸術文化振興会編『奈良西大寺の声明』（国立劇場第 47 回声明公演パンフレット）所収，日本芸術文化振興会　2011
坂本亮太「13～15 世紀における在地寺社と村落」『歴史学研究』885　2011
佐藤亜聖「大和における宝篋印塔の展開」藤澤典彦編『石造物の研究 ── 仏教文物の諸相 ──』所収，高志書院　2011
杉崎貴英「山城国賀茂荘東明寺・越中国雄神荘円満寺と賢昌房忍禅 ── 京都府木津川常念寺（東明寺旧蔵）仏涅槃図施入銘を出発点として ──」『富山史壇』164　2011
関根俊一「奈良県北東部の古寺と文化財 ── 般若寺から大柳生・狭川へ ──」『近畿文化』738　2011
瀬谷貴之・横内裕人・増記隆介「座談会南都仏教と鎌倉彫刻」『日本の美術』536「奈良の鎌倉時代彫刻」　2011
藤原重雄「妙法院所蔵『[神像絵巻]』（影印・解題）」島根県古代文化センター調査研究報告書『神々のすがた・かたちをめぐる多面的研究』所収，島根県古代文化センター　2011
渕田雲渓「大覚寺統における密教の受法とその周辺」『密教学研究』43　2011
細川涼一「夢野久作『ドグラ・マグラ』と楊貴妃漂着伝説」ひろたまさき・横田冬彦編『異文化交流史の再検討』所収，平凡社　2011
牧野和夫「思融 ── 良含周辺のこと・杭州出自の宋人のこと：「軍記物語と東アジアの仏教世界」補遺」『実践国文学』80　2011
松尾剛次「叡尊教団の河内における展開 ── 西大寺直末寺教興寺・寛弘寺と五輪塔」『山形大学大学院社会文化システム研究科紀要』8　2011

松尾剛次「河内西琳寺五輪塔と大和唐招提寺西方院五輪塔をめぐって：考古学と文献史学をつなぐ試み」『戒律文化』8　2011
松山充宏「画讃で読み解く太子絵伝 ── 瑞泉寺本の制作者を探る ──」『富山史壇』166　2011
山本勉「東国の鎌倉時代彫刻 ── 鎌倉とその周辺 ──」『日本の美術』537　2011
今村英明「消費者ライフスタイル転換のための組織モデル試論：仏教教団（サンガ）を題材とする仮説構築の試み」『イノベーション・マネジメント研究』7　2012
内田啓一「根津美術館蔵大日金輪・如意輪観音厨子について ── 文観房弘真と制作背景 ──」『仏教芸術』324　2012
大谷由香「智積院文庫聖教にみる15～16世紀の戒律研究について」『印度学仏教学研究』60-2　2012
大塚紀弘「唐船貿易の変質と鎌倉幕府 ── 博多綱首の請負から貿易使の派遣へ ──」『史学雑誌』121-2　2012
大塚紀弘「鎌倉極楽寺流律家の西国展開 ── 播磨国報恩寺を中心に」『地方史研究』357　2012
亀谷勉「わが国最古の動物施療施設か　僧医忍性の“馬病屋”」『日本獣医師学雑誌』49　2012
田戸大智「大乗義章三十講について」『印度学仏教学研究』61-1　2012
寺田孝重「奈良佐保短期大学の近辺に存在する茶関係の史跡について（1）」佐保短期大学『研究紀要』20　2012
舩田淳一「浄土宗と神仏習合 ── 中世律宗の天照説話から近世浄土宗の天照説話へ ──」仏教大学総合研究所編『法然仏教とその可能性』所収，法蔵館　2012
牧野和夫「『沙石集』論 ── 円照入滅後の戒壇院系の学僧たち ──」『実践国文学』81　2012
松尾剛次「中世律宗と文化」苅部直他編『日本思想史講座』2（中世）所収，ぺりかん社　2012

松尾剛次「中世叡尊教団の薩摩国・日向国・大隅国への展開 ── 薩摩国泰平寺・日向国宝満寺・大隅国正国寺に注目して ──」『山形大学人文学部研究年報』9　2012

村瀬貴則「検断関連史料の用語に見える「能」「所」小考」『メタプティヒアカ：名古屋大学大学院文学研究科教育研究推進室年報』6　2012

横田隆志「速成就院伝来『長谷寺密奏記』と奥砂子平法」『金沢文庫研究』329　2012

吉岡諒「叡尊・忍性の救済活動とその歴史的性格（上）」『仏教史研究』49　2012

吉岡諒「叡尊・忍性の救済活動とその歴史的性格（下）」『仏教史研究』50　2012

吉田栄治郎「山城国相楽郡上狛村における夙の歴史的諸相」世界人権問題研究センター『研究紀要』12　2012

ローリ・ミークス「尼寺における生活を再考する ── 儀礼，信仰，社会生活の場としての中世法華寺 ──」ルチア・ドルチェ／松本郁代編『儀礼の力 ── 中世宗教の実践世界 ──』所収，法蔵館　2012

内田啓一「西大寺叡尊と密教図像」大橋章一博士古稀記念会編『てらゆきめぐれ：大橋章一博士古稀記念美術史論集』所収，中央公論美術出版　2013

大塚紀弘「中世大和長谷寺の造営と律家」『仏教史研究』51　2013

金子哲「加古川下流域における新義律派の展開と地域社会：文観房殊音のころを中心に」『東京大学日本史学研究室紀要』別冊「村井章介先生退職記念中世政治社会論叢」所収　2013

苅米一志「武士と禅・律」『週刊新発見！日本の歴史』所収，朝日新聞社　2013

坂本亮太「鎌倉後期の禅僧無本覚心と地域社会 ──「野上八幡宮託宣記」を読む ──」『和歌山県立博物館研究紀要』19　2013

清水由美子「西大寺流律宗諸寺院と『平家物語』」中央大学『紀要』言語・文学・文化　111（244）　2013

高木徳郎「中世における山野の領有と絵図 ── 西大寺・秋篠寺の相論絵図をめぐって ──」悪党研究会編『中世荘園の基層』所収，岩田書院 2013
多田實道「室町時代の神宮と仏教」『印度学仏教学研究』62-1 2013
西岡芳文・瀬谷貴之・永村眞・福島金治・渡辺智裕・若林繁「福島県いわき市長福寺本尊地蔵菩薩坐像と納入文書 ── 概報 ──」『金沢文庫研究』330 2013
西谷功「鎌倉時代における泉涌寺流の道場荘厳について ── 仏画の宗教的機能 ──」『密教図像』32 2013
藤澤隆子「鎌倉時代における當麻曼荼羅図の受容 ── 受容層・下縁立像阿弥陀来迎など ──」『仏教芸術』328 2013
舩田淳一「中世の神祇・神道説と東アジア」説話文学会編『説話から世界をどう解き明かすのか』所収，笠間書院 2013
細川涼一「鎌倉幕府の医師」京都橘大学女性歴史文化研究所編『医療の社会史 ── 生・老・病・死 ──』所収，思文閣出版 2013
松尾剛次「叡尊教団の紀伊国における展開」『山形大学人文学部研究年報』10 2013
松尾剛次「中世叡尊教団と泉涌寺末寺の筑後国への展開 ── 新発見の中世西大寺末寺帳に触れつつ ──」『山形大学大学院社会文化システム研究科紀要』10 2013
松尾剛次「病の思想史」岩波講座『日本の思想』第 5 巻所収，岩波書店 2013
水本正人「非人にとっての救いと宗教」『部落解放研究』197 2013
宮川敬之「変容する道元（4）「禅律僧」の系譜」『本』38-5 2013
村瀬貴則「西大寺律家の検断」（大会報告要旨）『史学雑誌』122-1 2013
内田啓一「吉野・吉水神社蔵両界種子曼荼羅 ── 後醍醐天皇と文観房弘真 ──」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』第 3 分冊 59 輯 2014
大谷由香「智積院新文庫所蔵　志玉口述・道瑜筆録『梵網古迹下巻聞書』について」『智山学報』63 2014

苅米一志「初期禅律の前提と民衆的課題：延朗・慶円の活動を例として」『吉備地方文化研究』24　2014
木下龍馬「再考・関東祈祷所 ── 在地寺社と禁制 ──」『鎌倉遺文研究』33　2014
瀬谷貫之「建長寺創建本尊と北条時頼の信仰」村井章介編『東アジアの中の建長寺 ── 宗教・政治・文化が交叉する禅の聖地 ──』所収，勉誠出版　2014
高橋秀栄「称名寺の二代長老釵阿と『関東往還記前記』」『金沢文庫研究』333　2014
David Quinter「Eison and the Shōtoku Taishi Cult」『モニュメンタ・ニッポニカ』69-2　2014
谷村勉「大乗院の五輪塔と石工集団」八幡の歴史を探究する会『会報』53　2014
寺田孝重「奈良佐保短期大学の近辺に存在する茶関係の史跡について（３）西大寺，元興寺，称名寺」奈良佐保短期大学『研究紀要』22　2014
遠山元浩「清浄光寺蔵「後醍醐天皇像」関連史料の一考察」『駒沢女子大学研究紀要』21　2014
中本由美「日本近代における南都仏教研究のあゆみ」龍谷大学アジア仏教文化研究センター『ワーキングペーパー』13-9　2014
西谷功「新出資料『南山北義見聞記』発見の意義 ── 南宋律院請来の威儀・法式・法会次第の受容と泉涌寺流の展開 ──」『仏教学研究』70　2014
八田達男「鷲峰山金胎寺史の再構築 ── 古代・中世の実像を求めて ──」『やましろ』28　2014
舩田淳一「中世の神と死者 ── 忘れられた春日信仰の儀礼 ──」『アジア遊学』174　2014
舩田淳一「「西大寺十代長老清算」考 ── 舎利信仰と宗教活動をめぐって ──」『日本仏教綜合研究』12　2014
細川涼一「叡尊 ── 宗教的「平和」運動と鎌倉下向 ──」平雅行編『公武権力の変容と仏教界〈中世の人物　京・鎌倉の時代編第三巻〉』所収，清文

堂出版　2014
山口隆介「中世律宗の鎌倉進出と善派仏師 ── 神奈川・浄光明寺両脇侍像を中心に ──」奈良国立博物館編『特別展図録　武家のみやこ　鎌倉の仏像 ── 迫真とエキゾチシズム ──』所収　2014
山本勉・小久保芙美他「東京・上宮会所蔵聖徳太子孝養像考」『清泉女子大学人文科学研究所紀要』35　2014
石井千紘「鎌倉時代前期の僧綱仏師について ── 仏師善慶の僧綱補任を中心に ──」『仏教芸術』339　2015
内田啓一「早稲田大学図書館所蔵『狐草紙』と『文観阿舎利絵巻』── 文観房弘真の後世におけるイメージ化 ──」『早稲田大学図書館紀要』62　2015
内田啓一「妙法院蔵神像図像巻の図像学的考察」『美術史研究』53　2015
大菅俊幸「慈悲のかたち：仏教ボランティアを通して（その20・21）貧しく小さくされた人と共に：叡尊と本田哲郎神父（上）（下）」『大法輪』82-9・10　2015
大塚紀弘「〈コラム〉一遍聖絵に描かれた律僧」金沢文庫編『国宝一遍聖絵』（展覧会図録別冊）所収　2015
大塚紀弘「服装から見た中世の律僧 ── 伝木食応其像を読み解く ──」『ぶい＆ぶい』28　2015
緒方英樹「土木史　僧侶たちの土木技術（２）地域づくりに尽くした僧侶たちの土木：空海・空也・一遍・忍性（にんしょう）・叡尊（えいそん）・禅海・鞭牛（べんぎゅう）」『月刊建設』59-5　2015
奥本武裕「その後の北山十八間戸」奈良県立同和問題関係史料センター『研究紀要』19　2015
木村友紀「大和竹林寺所用瓦」『帝塚山大学考古学研究所研究報告』17　2015
黒尾和久「2013年度春季企画展：一遍聖絵・極楽寺絵図にみるハンセン病患者」『国立ハンセン病資料館研究紀要』5　2015
小林直樹「『閑居友』における律 ── 節食説話と不浄観説話を結ぶ ──」『国

語国文』84-10　2015
佐藤亜聖「河内における西大寺流律宗集団」『近畿文化』785　2015
鈴木昶「漢方医家伝（４）良観房忍性（りょうかんぼうにんしょう）　ライなどの社会事業に貢献」『漢方療法』19-1　2015
瀬谷貫之「建長寺創建本尊地蔵菩薩像と北条時頼の信仰をめぐって」上・下『金沢文庫研究』334・335　2015
高橋学「律宗系石塔からみた宰府最福寺について」太宰府市公文書館紀要『年報大宰府学』9　2015
藤元裕二「待乳山聖天本龍院所蔵「十六羅漢図」について：聖徳太子・空海・善導・叡尊の描かれた室町時代の羅漢図」『哲学会誌』39　2015
舩田淳一「中世の春日信仰と死者供養 ── 白毫寺の一切経転読儀礼と穢れをめぐって ──」東北大学大学院文学研究科日本思想史研究室，冨樫進編『カミと人と死者』所収，岩田書院　2015
松尾剛次「叡尊教団の豊後・豊前両国における展開」『山形大学歴史・地理・人類学論集』16　2015
村瀬貴則「中世西大寺の別当と僧団 ── 所謂「別当乗範置文」の考察を中心に ──」『古文書研究』79　2015
山村雅史「中世奈良の「河原者地」考察」同和問題関係史料センター『研究紀要』19　2015
内田啓一「個人蔵清涼寺式釈迦如来画像について ── 西大寺像との関わりを中心に ──」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』61　2016
大菅俊幸「慈悲のかたち：仏教ボランティアを通して（その 26）忍性（にんしょう）菩薩，生誕八〇〇年に思う：弱き人々に寄り添った生涯」『大法輪』83-3　2016
大塚紀弘「中世律家の出版事業と律法興行 ── 西大寺流を中心に ──」『仏教史研究』54　2016
大塚紀弘「西大寺叡尊の往生と蓮糸袈裟」日本史史料研究会編『日本史のまめまめしい知識』第１集所収，岩田書院　2016
奥健夫「木造叡尊坐像」『月刊文化財』633　2016

小林直樹「無住と律（1）『沙石集』と『四分律行事鈔』・『資持記』の説話」大阪市立大学国語国文学研究室『文学史研究』56　2016
五味文彦「時代に生きた叡尊」同『日本史の新たな見方・捉え方：中世史からの提言』所収，敬文舎　2016
佐伯俊源「叡尊の思想基盤と社会的実践」『日本仏教学会年報』81　2016
佐伯俊源「湛海和尚と真言律」『密教学研究』48　2016
佐藤亜聖「石塔の定型化と展開」中島圭一編『十四世紀の歴史学』所収，高志書院　2016
佐藤亜聖「大和における西大寺流律宗集団」『近畿文化』799　2016
島津毅「中世後期の葬送と清水坂非人・三昧聖」『部落問題研究』215　2016
島津毅「中世京都における葬送と清水坂非人」『史学雑誌』125-8　2016
高橋真作「鎌倉・光明寺蔵「十八羅漢及び道宣律師像」について ── 宋代張玄様羅漢図と中世律家 ──」『仏教芸術』345　2016
筒井紘一「茶の湯と仏教（第 8 回）明恵上人と叡尊」『淡交』70-8　2016
長坂一郎「山形県長井市普門坊蔵木造馬頭観音像新考 ── 笠間時朝造立宇都宮明神本地仏としての検証 ──」『仏教芸術』347　2016
西澤美仁「西行和歌「秋篠や外山の里」考」『西行学』7　2016
西谷功「泉涌寺流における結夏儀礼の復興と南都諸寺院への影響 ── 俊芿請来の道宣・元照　肖像画の流布を視座として ──」平成 26-27 年度東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター公募研究「中世寺院における宋代仏教文化受容の統合的研究」研究成果報告書『『南山北義見聞私記』の研究 ── 附翻刻 ──』所収　2016
八田洋子「「忍性の晩年と遺命」そして「石工心阿を考える」（1）『史迹と美術』86-5
同（2 の上）『史迹と美術』86-6，同（2 の下）『史迹と美術』86-7　2016
舩田淳一「中世の白毫寺における経供養儀礼について」『宗教研究』89 別冊　2016

細川涼一「鎌倉時代の子ども」細川涼一編『生・成長・老い・死〈生活と文化の歴史学７〉』所収，竹林舎　2016

細川涼一「相模国腰越・固瀬河・金洗沢考 ── 都市鎌倉の刑場と刑死者の運命 ──」細川涼一編『生・成長・老い・死〈生活と文化の歴史学７〉』所収，竹林舎　2016

松尾剛次「関東祈祷所再考 ── 禅・律寺に注目して ──」『日本仏教綜合研究』14　2016

村瀬貴則「西大寺律家の刑罰：中世寺院における死刑不科の位置」（上）（下）『史学』85-4，86-1・2　2016

山川均「筒井氏と西大寺」奈良県立同和問題関係史料センター『研究紀要』20　2016

山川均「東播磨の中世石塔と文観」『奈良歴史研究』86　2016

湯浅治久「東国仏教諸派の展開と十四世紀の位相 ── 律宗・禅宗・日蓮宗 ──」中島圭一編『十四世紀の歴史学』所収，高志書院　2016

吉村彰史「日蓮と忍性について」三友健容博士古稀記念論文集刊行会編『智慧のともしび：アビダルマ仏教の展開』所収，山喜房仏書林　2016

西岡芳文「称名寺聖教・金沢文庫文書の面白さ～「忍性菩薩展」をめぐる発見から～」『金沢文庫研究』338　2017

村上紀夫「近世における西大寺の製薬と民衆意識：豊心丹をめぐって」『奈良大学紀要』45　2017

山川均「般若寺石製反花座について」奈良県立同和問題関係史料センター『研究紀要』21　2017

山村雅史「中世宿者の警固に関する考察から ── 大和薬師寺の芸能警固を主題材として ──」奈良県立同和問題関係史料センター『研究紀要』21　2017

３，西大寺関係史資料

補遺（2011 年以前）

八尾市文化財調査研究会編『聖徳太子 ── 伝説のなかの八尾 ──』八尾市

文化財調査研究会　1996
井上幸治「史料紹介　円覚上人導御の「持斎念仏人数目録」」『古文書研究』58　2004
中世鎌倉研究会編『極楽律寺史料抄』中世鎌倉研究会編『シンポジウム「中世都市鎌倉と極楽寺」予稿集』所収　2006
池田末則「〈複〉西大寺三宝料田園目録」，同氏編『近世大和紀行集』２所収，クレス出版　2008

2011 年以降

浅野啓介「史料紹介　西大寺食堂院跡出土文字資料と食堂院」『奈良史学』29　2011
元興寺文化財研究所編『豊山長谷寺拾遺』第 4 篇之 1　総本山長谷寺文化財等保存調査委員会　2011
般若寺『般若寺笠塔婆の解説 ── 銘文の解読解釈 ──』（境内文化財解説パンフレット）　2011
大和郡山市教育委員会編『額安寺宝篋印塔修理報告書』大和郡山市教育委員会　2011
関口静雄・寺津麻里絵「［資料］惟宝蓮体『真言礦石集』翻刻と解題（その一）」『学苑』864　2012
川崎剛志，苅米一志，土井通弘編『備前国西大寺縁起絵巻』就実大学吉備地方文化研究所　2013
永井晋他編『金沢北条氏編年資料集』八木書店　2013
David Quinter「Prince Shōtoku Ceremonial: Eison's Shōtoku Taishi Kōshiki」（翻訳）『モニュメンタ・ニッポニカ』69-2　2014
水野敬三郎他編『日本彫刻史基礎資料集成』鎌倉時代造像銘記編 10　中央公論美術出版
（関係分）
「元興寺聖徳太子像」「極楽寺十大弟子像」　2014
黒田俊雄編『訳注日本史料　寺院法』集英社　2015

（関係分）

第４編　南都（興福寺／東大寺／西大寺／法隆寺）

西大寺関係文書６通（西大寺文書４通，福智院家文書２通）の注釈

水野敬三郎他編『日本彫刻史基礎資料集成』鎌倉時代造像銘記編 11　中央公論美術出版

（関係分）

「聖徳太子像（上宮会）」　2015

加藤謙吉「『西琳寺文永注記』について」小林真由美他編『寺院縁起の古層 ── 注釈と研究 ──』所収，法蔵館　2015

宝蓮『瑜伽伝心鈔』（中世禅籍叢刊第７巻『禅教交渉論』所収，臨川書店）　2016

阿部泰郎解題

水野敬三郎他編『日本彫刻史基礎資料集成』鎌倉時代造像銘記編 13　中央公論美術出版

（関係分）

「叡尊像（奈良　西大寺）」　2017